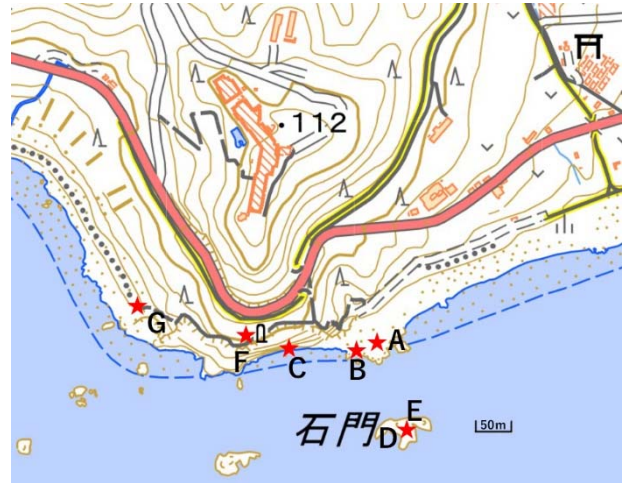


93 田原市日出の石門

田原市日出町浜にはチャートの岩塊に穴の開いた海食洞がいくつか見られます。日出の石門と呼ばれ渥美半島の有名な観光地です。



←岸の石門（石門 A） 2025 年

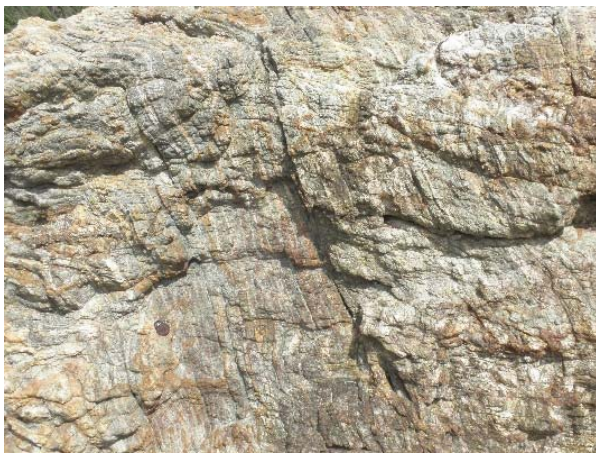
秩父帯はジュラ紀付加コンプレックスで中生代の地層からできており、混在岩と砂泥互層が断層で繰り返し現れます。この地域では構造的上位（古い方）から、石巻山ユニット、嵩山ユニット、多米ユニットと区分されます。日出では多米ユニットがみられます。

多米ユニットは主に走向方向への連続性の良いチャートの大規模岩体と、泥質基質中にチャート、砂岩、珪質泥岩などからなる岩塊を含む混在岩からできています。玄武岩や石灰岩を含みません。チャートからペルム紀～ジュラ紀の放散虫化石が、珪質泥岩からジュラ紀の放散虫化石が見つっています。チャートは白色・灰白色・暗灰色・赤色で犬山の本曾川沿いにみられる赤褐色とは異なる色のものが多いです。田原市日出町日出の石門は層状チャートに穴が開いた海食洞です。岸边にあるものを岸の石門、沖にあるものを沖の石門と呼び5つほど数えられています（岸の石門がA,B,Cの3つ、沖の石門がD,Eの2つ）。一番大きく観察しやすいAと仮称される岩体は東西60m、高さ約25mほどあり、走向NW-SEで傾斜NE70°の正断層によって破碎され波の侵食で大きな穴に成長したものです。岸の石門Aの海食洞の入り口周辺は観光のためか、多くの岩塊が除去されており、洞に入りやすくなっています。Bの石門はAのすぐ右手（西側）にある小さなものでやはり断層が見られます。Cの石門は西方200mにあります。沖の石門は2つあり、Dの石門は東西の走向の断層で穴が開き、上方からよく見えます。Eの石門は岸边からはよくわかりません。



上から見た日出の石門 A と B

岸の石門Aの東側ではチャート中の断層鏡肌が見られます。走向はN70° E, 傾斜は40° Nです。その周辺には砂礫がチャートの岩塊の表面に張りついて見られますが、原因はよくわかりません。



岸の石門付近の層状チャート 淡褐色～白色です



石門Aの東側で見られる断層鏡肌

上に登る車道（国道42号線）の途中にある駐車場から降りたところに旧海軍の伊良



2015年撮影の岸の石門A

入口には多くの岩塊が見られましたが現在は除去されています



チャートの岩塊の表面に張りついた砂礫

湖防備衛所跡があります。さらに奥に行くと下へ降りていく道の降り口にはチャートや砂岩が複雑な関係で接しています。下に降りていく道は途中で道が崩れており進めません。

伊良湖防備衛所跡奥の地点Fの混在岩→

恋路が浜の方から石門の先端部に向かって歩いていくと、層状チャート、珩質泥岩、泥岩及び混在岩が見られます。混在岩は黒色の泥質岩を基質に珩質泥岩、砂岩及びチャート角礫岩などのさまざまな岩石が入っており、珩質泥岩岩塊中からはマンガンノジュールも報告されています。海岸の岩石は汚れており区別が付きにくいですが、塩酸で発泡する岩片



日出の石門西方の混在岩

があったのでマンガンノジュールなのかもしれません。多米ユニットのチャート，珪質泥岩，泥岩及び珪質泥岩に含まれるマンガンノジュールに含まれる放散虫化石から，チャート，珪質泥岩，泥岩の順に累重する層序が知られています。



岸の石門 B



岸の石門 C ?



沖の石門 D



沖の石門 E ?

参考文献

池田芳雄，1979，伊良湖岬先端地区自然環境調査報告書 地形・地質．伊良湖，11，7-8.

村松憲一，2019，愛知県の地質とジオサイト 人と大地との関わり 第二版.189p.

中島 礼・堀 常東・宮崎一博・西岡芳晴，2010，伊良湖岬地域の地質．地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅），産総研地質調査総合センター，69 p.

【村松憲一】